

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
【部門区分】第 3 部門第 3 区分  
【発行日】令和 7 年 3 月 12 日(2025.3.12)

【公開番号】特開 2024-128035(P2024-128035A)  
【公開日】令和 6 年 9 月 20 日(2024.9.20)  
【年通号数】公開公報(特許)2024-177  
【出願番号】特願 2024-108975(P2024-108975)  
【国際特許分類】

C 0 8 J 9/14(2006.01)

10

【F I】

C 0 8 J 9/14 C E S

【手続補正書】

【提出日】令和 7 年 3 月 4 日(2025.3.4)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

20

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

熱可塑性樹脂および / またはその架橋体からなる樹脂成分と、酸化ジルコニウムとを含む発泡体であって、前記熱可塑性樹脂がオレフィン系樹脂を含み、前記酸化ジルコニウムの割合が、前記樹脂成分 100 質量部に対して 0.01 ~ 8 質量部であり、前記樹脂成分中に前記酸化ジルコニウムが分散相として分散し、前記分散相の平均径が 10  $\mu$ m 以下であり、かつ発泡倍率が 10 倍以上である発泡体。

【請求項 2】

前記分散相の平均径が 100 nm 未満である請求項 1 記載の発泡体。

【請求項 3】

前記樹脂成分がポリエチレン系樹脂である請求項 1 または 2 記載の発泡体。

30

【請求項 4】

酸化ケイ素をさらに含む請求項 1 ~ 3 のいずれか一項に記載の発泡体。

【請求項 5】

前記酸化ケイ素がシリカゲルである請求項 4 記載の発泡体。

【請求項 6】

前記酸化ジルコニウムが、空隙の壁面および / またはスキン層付近に局在化している請求項 1 ~ 5 のいずれか一項に記載の発泡体。

【請求項 7】

熱を放出可能な温感発泡体である請求項 1 ~ 6 のいずれか一項に記載の発泡体。

40

【請求項 8】

原料樹脂成分および酸化ジルコニウムを含む発泡性樹脂組成物を発泡成形する請求項 1 ~ 7 のいずれか一項に記載の発泡体の製造方法。

【請求項 9】

前記発泡性樹脂組成物が、マトリックスとしての前記原料樹脂成分中に前記酸化ジルコニウムが分散した分散相を有し、かつ前記分散相の平均径が 100 nm 以下である請求項 8 記載の製造方法。

【請求項 10】

前記発泡性樹脂組成物が、マトリックスとしての第 1 の原料樹脂成分中に酸化ジルコニウムが分散相として分子または原子単位で分散したマスターバッチと、第 2 の原料樹脂成

50

分との組み合わせである請求項 9 記載の製造方法。

10

20

30

40

50